

---

# 宵月夜

ハルチカ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

宵月夜

### 【Nコード】

N3687Y

### 【作者名】

ハルチカ

### 【あらすじ】

夜とタバコとわたしと彼。

空っぽになって考えよう。

座ったフローリングの床がやけに冷たくて、接した部分から体中の熱が吸い取られてしまえばいいのに、と思った。

ベットに背を預け、足元に転がっていたタバコに手を伸ばす。黒いパッケージに緑の文字。

なんだか毒々しい色だと笑ったのは、いつのことだったか。ゆっくりと長い煙を吐き出す、あの人の横顔はいつも綺麗だった。

わたしも真似をして、百円ライターで火をつけた。深く深く煙を吸い込むと、涙がじわりと溢れ出してくる。

…苦い。

けれど、脳を侵食していく痺れは甘く心地よくて、タバコをやめられない人の気持ち少し分かる気がした。

煙はどこに行くのだろう。  
涙はどうして出るのだろう。

行く先も理由もわからない。  
…そう、わからない。

だからわたしは、開け放たれた窓を閉めようとしなない。

吹き込む風。冷たくて濃い、夜の空気。  
ゆっくりゆっくり、わたしは考える。

なぜ、

彼が窓の向こうへ飛び立ったのか。

気付けば、灰が落ちかけている。

わたしはそれを灰皿に押し付けると、彼を呑み込んだ夜を振り返った。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3687y/>

---

宵月夜

2011年11月9日10時06分発行